

八 駒ヶ林(高麗返し)

駒ヶ林は、大輪田泊の一部ともいわれ、歴史上も重要な港でした。コマガバヤシの名は、大昔に高麗の船が出入していたので「高麗返し」がなまったものともいわれています。治承3年(一一七九)には、平清盛が宮島へ参詣する際に和田岬をまわって小馬林(駒ヶ林)に上陸したとあり、源平の戦いでも平家の軍船が沖に集まったといわれています。

また、駒ヶ林は古くから漁村でした。周辺では一番大きい村で、海辺にはぎっしりと家が立ち並び、大変活気があったといえます。美しかった海岸は、コンクリートで埋め立てられましたがいまでも漁師まちによく見られる細い路地がたくさん残っています。

今でも漁獲高は市内一、二を争い、春先にはいかなこの水揚げが最盛期となります。まちのあちらこちらで、くぎ煮を炊くいい匂いがあふれています。

主な見どころ

八尾善四郎像
兵庫運河建設の功労者の銅像。日露戦争で兵庫運河が物資堆積に果たした役割を評価され、この銅像は第二次世界大戦時も供出をまぬがれた。

徳本上人 六字名号石
文政6年(1823)に駒ヶ林の地に來た浄土宗の僧、徳本上人は、当時、鶴越に出没して旅人を悩ませていた悪者を、仏教の力によって名号石をたて、その下に封じ込めたという。工場間の路地の奥にまつられている。

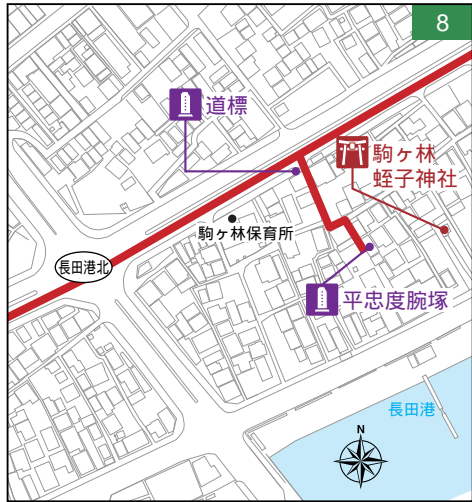
西代の楠
西代通2千目の道路の真ん中に立っている樹齢数百年といわれる楠の大木。西代村の守り神でこの木を切ると大火事が起こると伝えられている。ずっと後に、道路を広げようとして木に斧を入れようとした人々にも信じられない出来事が続いたのが、結局この部分だけ道路が細くなって残っている。

幸殿社
宝暦2年(1752)旧野田村の鎮守として創建されたと伝えられる。境内に幸殿松と称する老松があり、当地の産土神として崇敬されていたが、明治時代に枯損したといつ、摂津名所図会にもそれらしき松が描かれている。

平忠度腕塚
平清盛の末弟で文武ともに優れ、一の谷の合戦ではからめ手の大将だった平忠度が戦いに敗れ落ちのびていたところ、源氏の武士、回部六弥大志純と組み合いとなり、忠度が六弥太の首を切り落とそうとしたところ、六弥太の供が駆けつけ忠度の腕を切り落とした。これが最後と思った忠度が念仏を唱え始め六弥太が首を切り落としたといつ。腕塚は市地域文化財。



平忠度腕塚への入口にある道標



海泉寺
臨濟宗。正応2年(1289)建立。本尊の阿彌陀三尊像は、鎌倉時代の作品で市指定重要文化財。境内には、湯川秀樹博士にまつわる鐘などがある。

駒ヶ林神社
祭神は心神大皇、猿田彦大神、藏徳大神。平安時代の永延2年(1172)1月15日に始まったとされる生霊長さきうちよしが有奇。昭和34年に中止になっているが、地域の伝統を後世に伝えるため、その後何度か復活している。

駒ヶ林蛭子神社
えびすさん。祭神は蛭子命、大己貴命、八重事代主命。古くより地元漁師の崇敬する社として親しまれている。1月9・11日に初戎祭がある。

満福寺
曹洞宗。本尊は薬師如来。寺の堀が自然石の亀甲形の石積みとなっていることから、別名「亀の甲寺」と呼ばれている。敷地内には仏足石や西面地藏、観音様などがあり、阪神・淡路大震災の慰霊碑も建てられている。

證誠神社
権現さん。永延元年(1171)須磨の浦の真南にあたる紀州熊野の大神を勧請し、創祀された。大手の守護神として平家一門の崇敬篤く徳川の代には、須磨聖霊大権現と称せられた。摂津名所図会などにも描かれた神戸市内屈指の古社。5月19・20日に春祭、9月23・24日に秋祭、10月26・27日に例大祭がある。



駒ヶ林神社

